

ハザードマップで災害エリアチェック!



一般社団法人減災ラボ
代表理事 鈴木光

減災ラボが展開する「my減災マップ」は、クリアファイル、地図、オリジナルシール、マジックを使い自分が住む地域の災害リスクを知り、備えを考えるための防災教育ツールです。このページでは、my減災マップでも使うハザードマップで災害エリアをチェックしてみましょう。

「減災ラボ」は、しなやかに災害に向き合い、乗り越えるために柔軟な発想で減災活動を普及。防災、ソーシャル、学問・知学、メディア、コミュニティ形成のプロ集団です。

「my減災マップ」は一般社団法人減災ラボが開発、推進しています。より深い考察のワークショップは減災ラボにご相談ください。



ワークショップのポイント

・自分の在住エリアの災害リスクを知ること避難や備えなどをより細やかに認識できる

ワークショップのやりかた

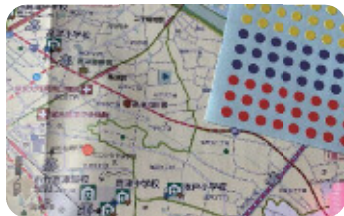
・ハザードマップとシールなどを使って、地震、火災、水害の際の危険な場所、安全な場所を確認し、自分専用の減災マップを作る

ポイント

- ・避難とは「難」を避けるということ
- ・ライフラインが止まったからといって、避難所に行っても、入れなかったり、感染症の不安がありえる
- ・自宅が安全であれば、自宅を「避難所」にしよう!
- ・そのためにも、どのような時に、避難をしないといけないのかを日頃から知っておこう
- ・(安全を確認した上で)自宅に留まることも立派な避難です



1



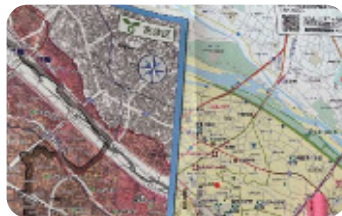
マップで自宅を見つけ、自宅にシールを貼る
またはペンでマークする

2



安全な場所を確認する(避難所、広域避難場所)

3



危険な場所を確認する(水害の場合、洪水の浸水範囲と深さ、崖崩れの危険性を確認する)

4



避難する必要がある場合、避難先を確認する

用意するもの

- ・ハザードマップ
- ・カラードットシール
- ・カラーペン



ハザードマップについて

高津区はハザードマップが豊富なので、自分がみやすいものを選んでみましょう!

ハザードマップはインターネットで見することもできます。

1、2、3は、区役所の窓口で印刷されたものをもらうこともできます。

1

タブロイド誌「号外!備える。かわさき」第2号



2

高津区流域地形図



3

洪水ハザードマップ▶高津区



4

ガイドマップかわさき▶

防災マップまたは、かわさきハザードマップ

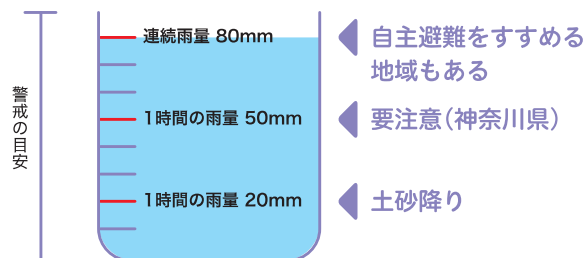


自宅で簡単雨量計を作ってみよう

長野県筑北村の防災担当者に教えていただいた、長野県では一般的と言われる「ワンカップ雨量計」が、減災のグッドアイデアなのでご紹介します。阪神淡路大震災以降に神戸地区の灘五郷酒造組合加盟の酒造メーカー各社から、日本酒のワンカップのラベルに目盛りを書き込んだ「目盛り付コップ酒」(通称:ワンカップ雨量計)が市販されたと言われていて、インターネットで「ワンカップ雨量計」と検索してみると、気軽にできる防災対策として、長野県以外にも各地で個人や自主防災組織で取り組まれている様子もみられます。積極的に気象情報を取り、自分の家の雨量状況を知り、安全な避難を判断する、ということは、どこの地域でも取り入れてほしいと思います。



降 雨



作り方

ワンカップの酒瓶に1cm幅間隔のメモリを印した透明のビニールシートを貼る。もしくは油性ペンで直接描いても可

置き場所

ベランダや庭先の屋根や障害物がなく風で酒瓶が倒れにくい場所におきましょう



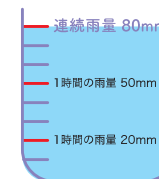
完成イメージ

目盛りの意味と降雨のイメージ

「1時間雨量〇〇mm」は、ある時間から1時間でどれくらいカップに雨がたまったかをみます。気象庁の「雨の強さと降り方」によると、1時間雨量が20~30mmですと強い雨で土砂降りと表現されます。傘をさしていても濡れて、車のワイパーもあまり役に立たないイメージです。(※1) この雨量で災害がすぐに起きるとは限りませんが、急傾斜の近くに家がある方は気をつけていただきたい目盛りです。

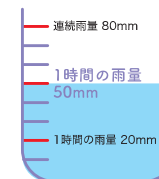
「連続雨量80mm」は、長野県筑北村のとある地区の独自の基準です。

この地区は、過去に水害を経験していることもあり、地域の災害リスクを勉強し、独自の自主避難基準を定め、ラジオや自治体からの気象情報、防災情報と合わせて「時間雨量が20mmに達した場合または連続雨量が80mmに達した場合」には、自主避難を開始し、「自分の命は自分で守る」という目安にしています。



神奈川県の場合で気にして欲しいのは「時間雨量50mm」です。

県は下水道の浸水対策を時間雨量概ね50mmとしています。(※2) 1時間に50mmの雨ならば浸水被害が起きないように地中のマンホールの大きさを設計し、設置していることになります。しかし、県の下水道の浸水対策の整備率は、川崎市で57%、神奈川県で62.3%(令和元年度末時点)であることや近年時間雨量50mmや80mmが全国的に増えていてゲリラ豪雨や集中豪雨もあることから、行政の防災情報だけに頼らず、各家庭でも雨への関心を持っておくことが大切です。



参考になるWEBサイト

1 気象庁の雨の強さと降り方(気象庁)

(※1)



2 下水道から見る浸水対策(神奈川県)

(※2)

